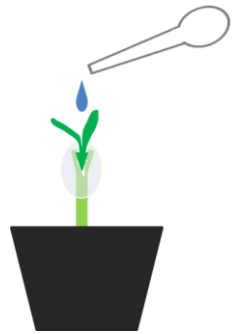


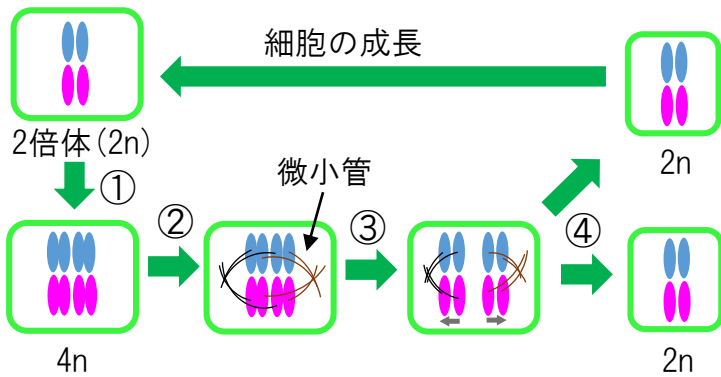
倍数体作出に最適なコルヒチン濃度の検討

倍数体個体の作出に最適なコルヒチン濃度を検討するため、愛媛育成系統に濃度を変えたコルヒチンの滴下処理を実施し、新梢の発生個体数について調査を行った。



0.05%、0.1%、0.5%に濃度調整したコルヒチン
を新芽へ滴下

細胞分裂の流れとコルヒチンによる倍数化



細胞分裂は、事前に①染色体の複製が行われた後、②両極から伸びた微小管が③複製された染色体を両極へ引っ張り、最後に④細胞の分離が行われる。コルヒチンは微小管の伸長を阻害するため、染色体の移動、細胞分裂が起こらず、人為的に倍数化した細胞を作出することができる。

系統	コルヒチン濃度 (%)	処理個体数	枯死	新梢無発生	新梢発生
愛媛48号	0.05	8	0	4	4
	0.1	8	0	6	2
	0.5	11	0	11	0
愛媛49号	0.05	6	1	4	1
	0.1	6	0	3	3
	0.5	8	0	8	0
愛媛52号	0.05	3	0	3	0
	0.1	3	1	2	0
	0.5	3	0	3	0
計	—	56	2	44	10

- ・ コルヒチン処理を実施した**56個体**中、**10個体**で新梢の発生が見られた
- ・ **0.5%**処理ではすべての個体で新梢の発生が見られなかった

引き続き、コルヒチン処理による倍数体作出個体数の調査を実施